

こだからっうしん

# 子宝通信

第2号

平成23年7月29日発行  
社会福祉法人嬉泉  
世田谷区船橋1-30-9

## 子育てアイウエオ

子どもの生活研究所所長 石井哲夫



### イ、生きる力を考える

わたしは、子どもを見て、その心の中を考えることが癖になってしまった。だから泣いている子を見ても『どんな言い分があるのかな』とか『どれだけ頑張るのかな』とか『気が変わるときはどんな時かな』などと考えてしまう。そして嫌なことが沢山あっても、『強く生き抜いて欲しい。』と思うようになってきた。

私の見るテレビの画面に、発展途上国で、働く子どもの映像が出てくる。大人と違って、小さな身体を精一杯使って水をくんだり、薪拾いをしたりしている子ども達を見ると、可哀想になってしまうが、気を変えて見直すとこの子ども達の『生きる力のたくましさ』に打たれるのである。家で、くつろいでいる孫達を見慣れていると、孫たちの生きる力の育ちが心配になってくる。以前、文部科学省から『生きる力を育てる』というスローガンが出された時、まことにいい言葉だと共感したが、そのためにどうしたらよいかをしっかりと聞き損なったようである。『心理学』では『コーピング理論』というのがあり、『人間は困難なときにそれを乗り越える働きをする特性を持っている』という、困難さに直面すると生きる力がわき起こってくるというのである。そういう点から考えると、孫達は、テレビを見るだけ見て、宿題を何とか片付けたり、ガミガミ叱る親に耐えることも、『生きる力』を育むいい機会なのかと思ってしまう。でも基本は、やはり、親が子どもの生きる力を見守り、辛いときにしっかりと支えていくことが大事なのであろう。健康な心から『生きる力』がわいてくるからである。